

幌向歴史物語

～140年前から幌向の歴史が始まった～



日時 10月24日 10時30分

会場 カームビラホール

企画・制作・講演 仲田敏博

幌向歴史物語

今日は第15町内会の敬老会の皆さんに、幌向の事を、お話させて頂く機会を頂き大変有難うございます。

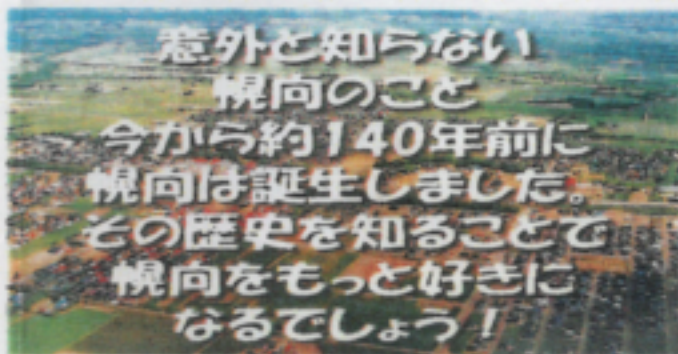
今日の講演内容は幌向の歴史について今からご紹介いたします。

私たちが住んでいる幌向の事、皆様方がどの程度認識されているか、クイズ形式でお話させて頂きま
すので1時間程お付き合い、よろしくお願い致します。

まず最初に、皆さん方が幌向に居る年数をお尋ねいたします。私は昭和56年に発生した幌向の大水害
の時に幌向に居たと言う方はどの位いらっしゃるでしょうか？…手を上げて頂けますか？

ご協力有難うございました。

今回のセミナーはクイズ形式となっていますので多分寝る事が出来ないと思いますがよろしくお願い致します。
それでは、皆さんのご協力よろしくお願い致します。



意外と知らない幌向のこと

今から約140年前に幌向は誕生しました

その歴史を知る事で幌向をもっと好きになるでしょう

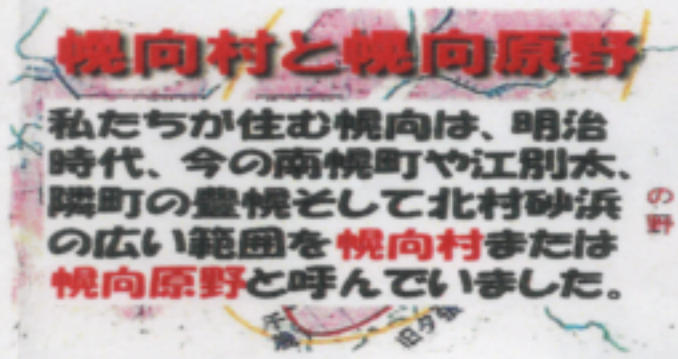
それでは今から幌向歴史物語を始めます。



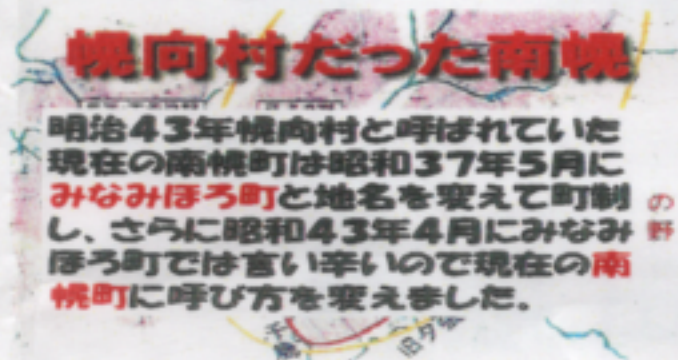
岩見沢市のルーツは幌向にあり！



幌向村と幌向原野



私たちが住む幌向は明治時代、今の南幌町や江別太、隣町の豊幌
そして北村砂浜の広い範囲を幌向村または幌向原野とよんでいまし
た



明治43年幌向村と呼ばれていた現在の南幌町は昭和37年5月に
みなみほろ町と地名を変えて町制し、さらに昭和43年4月に南幌町
に呼び方を変えました

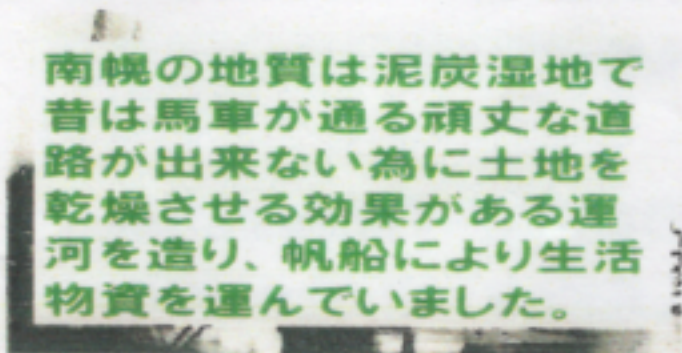
皆さん、南幌温泉へはよく行かれますか？以前、露天風呂の柱の所に幌向南何号西何線という住所の立札が貼ってありました。現在は貼ってあるか分かりませんが？南幌が幌向だったと言う証拠です。これから少し、昔の南幌町の事についてお話します。



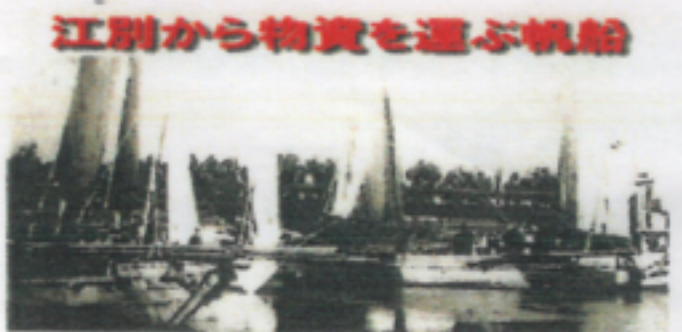
幌向運河とは
南幌町と江別市の間には幌向運河があります



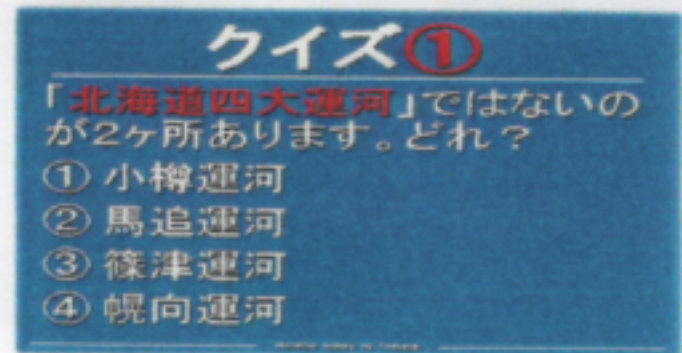
幌向運河と馬追運河です。



南幌の地質は泥炭湿地で昔は馬車が通る頑丈な道路が出来ない為に土地を乾燥させる効果がある運河を造り帆船により生活物資を運んでいました



これは江別から南幌に生活物資を運ぶ帆船です。
風を利用して船を動かすヨットと同じ仕組みの船ですね。
この時はエンジンがまだ無い時代です。



ではここで運河に関するクイズです。
北海道には北海道四大運河という言葉が残されています。
その四大運河に含まれていない運河がこの中に2ヶ所あります。
どの運河だと思いますか？



南幌町にある今の幌向運河です

南幌にある幌向駅通



クイズ②

「幌向駅通」とは次のうちどれ

- ① 馬車の駅である
- ② 宿泊施設である
- ③ 船の駅である

運河の船着場に開所され旅人の宿泊などに利用され、開拓期の交通を担って年間550人の官庁の役人や行商人も宿泊していました。平成18年9月に国の登録有形文化財に指定されております。

幌向 駅通所跡

旅客の宿泊官馬を使って貨物の運送等に利便をもたらすねらいで、明治45年4月松田与三氏によってこの場所に開所し、交通不便な地帯の文化の発展に大きく貢献した。昭和5年夕張鉄道の開通に伴い、昭和6年11月で廃止となったのである。

岩見沢市幌向

一方、私たちの住む幌向は現在のJR幌向駅周辺の地域が1895年(明治28年)に岩見沢村へ編入し、江別太と豊幌が江別市に編入され、北村砂浜は北村(その後岩見沢市に合併)に編入しました。

幌向村が4市町村に編入

- 岩見沢市幌向
- 江別市江別太・豊幌
- 南幌町
- 北村(岩見沢市と合併)

それでは次に、南幌町にある幌向駅通についてお話します。

幌向駅通とは次の内どれ①馬車の駅である②宿泊施設である③船の駅である

運河の船着場に開所され旅人の宿泊などに利用され開拓期の交通を担って年間550人の官庁の役人や行商人も宿泊していました平成18年9月に国の登録有形文化財に指定されております
この建物がある所は、国道337号線で江別方面から南幌町に入った町はずれに幌向駅通所跡として今も残っています。

この建物は明治45年4月松田よぞうさんによって開所しましたが、昭和5年の夕張鉄道の開通に伴い、昭和6年11月でこの施設は廃止になりました。

南幌町は幌向村の中心として栄えた村なので、この他に南幌町には幌向と名の付く施設がたくさん残されています。

例えば幌向村立育成尋常小学校や幌向村立南幌尋常高等小学校それから北海道幌向高等学校これは今の南幌高校です。

そして幌向郵便局や幌向村公会堂などもあり建物は残っていませんが跡だけは残っています。

それでは、やっと本題の幌向の話に戻ります。

幌向の開拓は、幌向川と石狩川の合流点付近に渡船場(トセンバ)ができ、ここから三笠の幌内炭鉱への道路や鉄道が敷かれたことから歴史は始まります。

一方私たちの住む幌向は現在のJR駅周辺の地域が1895年(明治28年)に岩見沢村へ編入し江別太と豊幌が江別市に編入され北村砂浜は北村に編入しました。

幌向村が4市町村に編入し、別々の道を歩み始めました。

幌向の由来

幌向は昔、アイヌ語で**ポロ・モイ**(大きな淀みのある川)と呼ばれ、1883年(明治16年)ポロ・モイに当て字をして和名に替えて現在の幌向となりました。

幌向は昔アイヌ語でポロ・モイといって大きな淀みのある川と呼ばれ1883年(明治16年)ポロ・モイに当て字をして和名に替えて現在の幌向となりました

次に幌向の由来についてお話します。

クイズ③

岩見沢市は今年、開基135周年を迎えます。
では幌向は今年、開基何周年を迎えるのでしょうか？

ここで、クイズです。

北海道は昔、蝦夷地と呼ばれていましたが1869年に松浦武四郎が北海道と命名し今年、命名153周年を迎えました。

北海道の命名から15年後に岩見沢が誕生し今年、開基138周年を迎えました。では幌向は今年、開基何周年を迎えるのでしょうか

幌向のはじまり

幌向は幌内炭田が発見されて以来、明治8年(1875年)頃に幌向太に開拓小屋が設けられ、炭田の調査や運搬道路、鉄道の測量のため明治13年(1880年)から人の往来がありました。
明治15年(1882年)に石川県人の原田喜助氏が開拓移住民として北村砂浜に入植をしたのが幌向村のはじまりとなります。

幌向は幌内炭田が発見されて以来、明治8年頃に幌向太に開拓小屋が設けられ炭田の調査や運搬道路、鉄道の測量のため明治13年から人の往来がありました。明治15年に石川県人の原田喜助氏が開拓移民として北村砂浜に入植をしたのが幌向村のはじまりとなります。



移住民の開拓小屋造り

この写真は移住民が住むための開拓小屋を造っているところです。



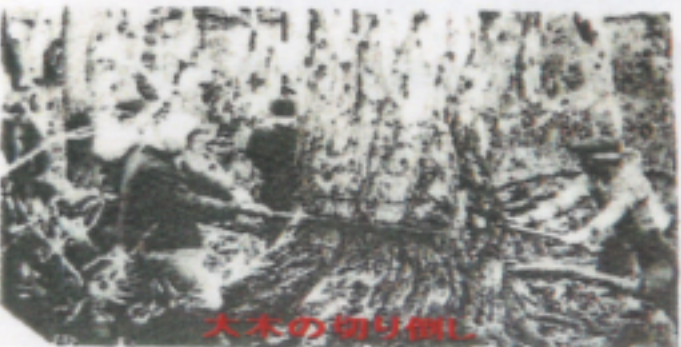
子供を背負って小屋造り

お母さんが子供を背負って小屋造りをしています



大木伐採と開拓小屋造り

当時の幌向村は原始林だったので、その大木を切って開墾し、小屋造りに利用していました。



大木の切り倒し

大きなノコギリで大木を切り倒します。



当時の開拓移民の開拓小屋の完成です。藁の家だったんですね。



開墾とは、土の中に埋まっている大木の根っこを取り除いて畑や田圃となる農地をつくる作業です。



田圃のシロカキ作業は昭和35年頃までトラクターではなく、馬を使っていました。

明治40年頃の幌向市街

明治40年頃の幌向の地図です

昭和10年頃の幌向市街

昭和10年頃の幌向の地図です

昭和35年頃の幌向の国道

昭和33年頃の幌向の地図です

昭和33年頃の幌向市街

これは昭和35年頃の幌向の国道の写真ですが、多分当時の国道は砂利道から舗装道路になったばかりの写真だと思います。この写真を見ると道路に白線を引いたばかり写真のように見えます。58年前の貴重な写真ですね。

昭和55年頃の幌向の国道



昭和55年頃の幌向にある国道12号です

昭和55年頃の幌向の町並み



そして、同じく昭和55年頃の幌向の町並みです。

家がまだ、あまり建っていませんね。

クイズ④

北海道で一番高い山は旭岳ですが、では岩見沢で一番高い山は何という山でしょうか？

はい、ここでクイズが8問続きます。

北海道で一番高い山は旭岳ですが、では岩見沢で一番高い山は何という山でしょうか？

クイズ⑤

幌向岳の標高は洞爺湖の有珠山より高いが、日高山脈にあるアポイ岳より高いか？低いかな？

幌向岳の標高は洞爺湖の有珠山より高いが、日高山脈にあるアポイ岳より高いか低いかな？

幌向岳山頂からの眺めは絶景



幌向岳に登山すると、この絶景を見る事ができます。最高の眺めですね。

クイズ⑥

幌向岳は次の内どこにある
①幌向地区 ④上志文地区
②北村地区
③栗沢地区

幌向岳は次の内どこにあると思いますか？

- ①幌向地区 ②北村地区 ③栗沢地区 ④上志文地区

幌向岳山頂からの眺め



幌向岳山頂からの眺めです。